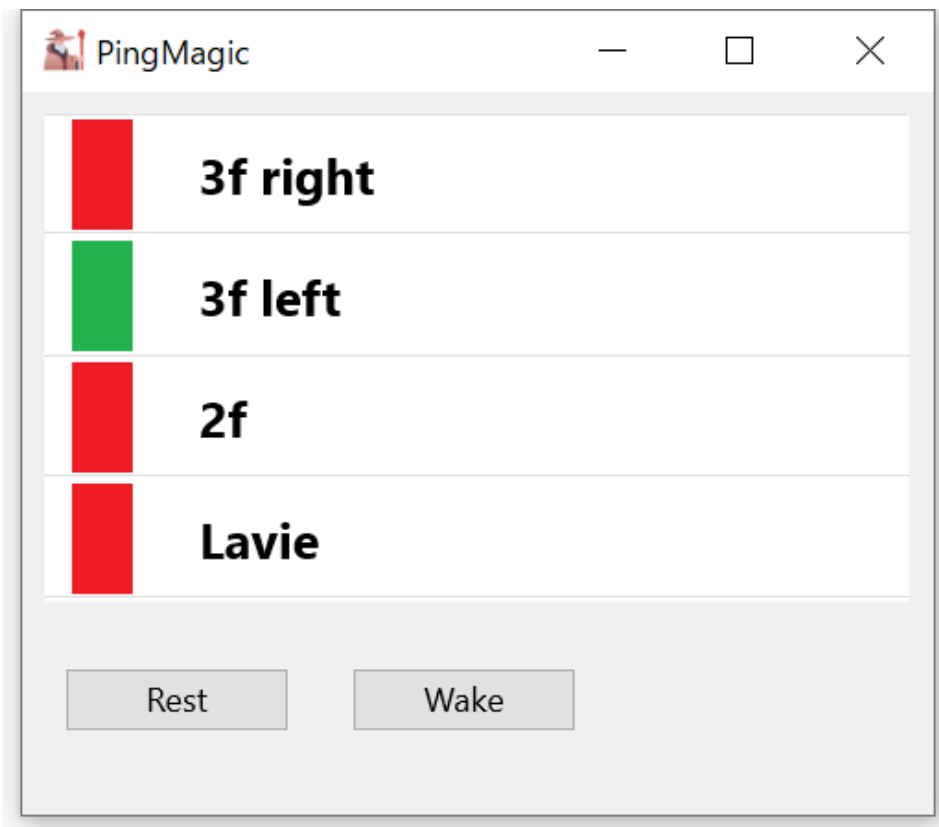


PingMagic: あらかじめ登録している PC を必要に応じて WOL で起こすユーティリティ

by nao ([jake.burst@gmail.com](mailto:jake.burst@gmail.com))

## 使い方

起動すると



のように表示されます。ここで各行の一番左の色帯は、緑が起きている状態（つまり ping に応答がある）赤は寝ている状態（ping に応答がない）を表し、次の項目は任意につけた PC 等の名前です。起動時にプログラムと同じ階層にある”machines.txt”というファイルを読み込み、そのファイルに記載された PC を一通り ping してその結果を表示しています。machines.txt がアプリケーションのフォルダーに無いと、ファイルを指定するダイアログが出てきて、任意のファイルを選択できますので、そのような形で複数のファイルを切り替えて運用することも可能です。

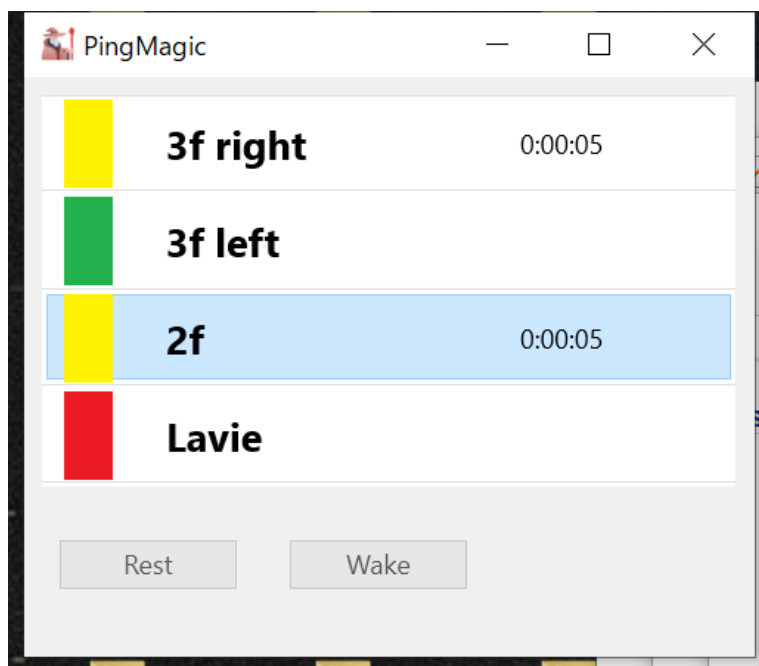
この machines.txt（以下の例）で、一行の先頭文字が'#'の場合は、コメントとして読み飛ばされます。実質の先頭行は、LAN のグローバルアドレスで、それ以降の行は、

```
#example machines.txt #is preceeding comment line
#LAN global address for magic packet
192.168.0.255
#name,MAC_address,IP_address
#MAC_addresses are FAKE
3f right,1c-2c-87-55-c5-f8,192.168.0.127
3f left,ED:ED:FB:94:9F:5F,192.168.0.119
2f,14:a9:dd:2a:3b:1b,192.168.0.141
Lavie,4c:6a:cc:c7:3b:30,192.168.0.139
```

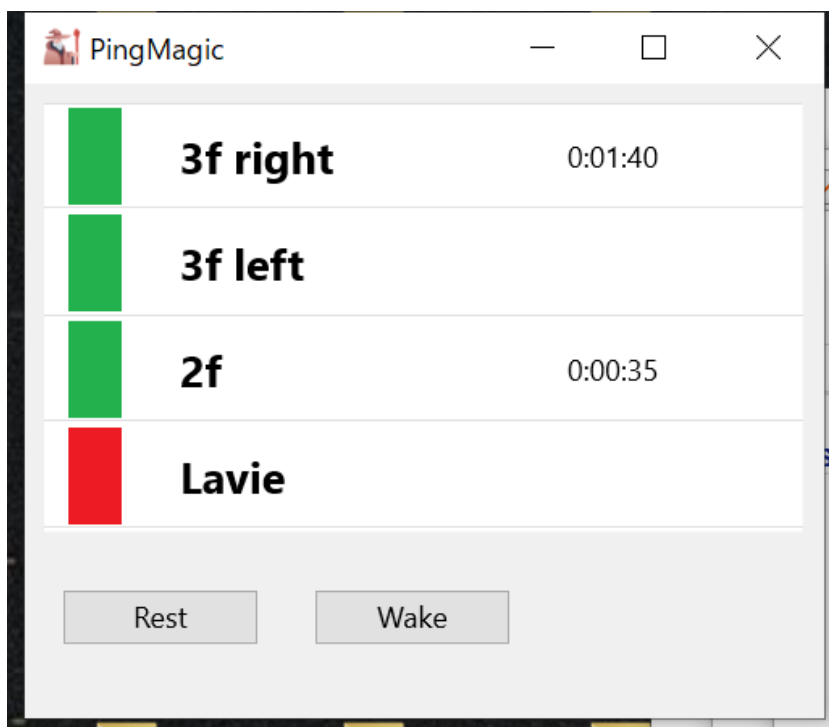
一行に一つのエントリで、カンマで区切った項目が、左からマシン名、MAC アドレス、IP アドレスです。MAC アドレスの区切りは、”:”でも”-“でも可です。この MAC アドレスは fake です。実際の正しい値に置き換えてください。

この状態から、起こしたいマシンをクリックして”Wake”ボタンを押せば、まず Magic Packet を該当マシンに送り、Wake On Lan を試みます。引き続き Ping して状態をモニターしつつ、経過時間を表示します。このマシン選択は複数選択が可能で、選択解除は再度選択、緑以外全部を選択するならば画面内の”Rest”ボタンを押してください。選択が終了したら”Wake”ボタンを押してください。

途中の状態が、



です。全部のマシンが起きると、



となり、Ping を送ってからの経過時間（秒単位）が残ります。

マシンは、WOL 可能で、ping に応答すればいいので、Windows マシンだろうが、MacOS マシンだろうが、Diga(?)だろうが、Linux マシンだろうが扱えます。状態が緑になっても、それは最低限 ping に応答しているというだけで、システムの立ち上がりが遅ければ、Remote Desktop やら VNC やら ssh に応答できない可能性はあります。具体的な応答時間はマシンや起動する OS、またその OS の混み入り具合でずいぶん変わるようです。我が家の例では短い方で 20～30 秒程度、長いと 2 分を超えました。さすがに 10 分を超えるのは異常だと思われるので、実際にマシンの電源が入ったかをご確認ください。時々 MAC アドレスが間違っているとか、BIOS の設定、Windows や Linux 側の設定が正しくないとかで、WOL が出来ないことがあります。Windows11 は完全シャットダウンからの WOL は出来ないようです。またマシン 10 台程度までのテストはしていますが、さらに多くのマシン対象のテストは出来ていませんので、何か不具合があれば、記載のメールアドレスへご連絡ください。

最後に、プログラムのアイコンは、FlatIcon の

<https://www.flaticon.com/free-icons/wizard>

を使用させていただいています。